

私たちは壁 『秘密』の壁に どう向き合うか

秘密保護法と共謀罪がある日本社会を考える

それがいま、特定秘密保護法による「特定秘密」の壁と、共謀罪（複数の人が話をただけで犯罪になるおそれがある）の成立によって、取材の自由が今以上に侵害され、私たち国民の主権者としての地位と権限が形骸化していくおそれが極めて大きい。今回のシンポジウムでは、調査報道の現場でご活躍されている高田昌幸氏、石井暁氏を講師として招き、秘密保護法と共謀罪の危険性を考えたい。

北海道警察本部の「裏金」追及（北海道新聞）や、陸上自衛隊の非公然組織「別班」の暴露（共同通信）など、調査報道が警察の違法や自衛隊の違憲行為の現実を白日のもとに晒した。調査報道があつてこそ、わたしたち市民は主権者として必要な情報を知り、国や行政を監視し批判することができる。

問題提起

秘密保護法と共謀罪の今

東京弁護士会秘密保護法対策本部委員

トークセッション

高田昌幸氏 × 石井暁氏

高知新聞記者

共同通信編集委員

コーディネーター

清水勉

東京弁護士会秘密保護法対策本部委員

高田昌幸氏

高知新聞記者



1960年高知県生まれ。1986～2011年、北海道新聞記者。経済部、社会部、東京政治経済部、ロンドン支局などで勤務。1996年、「北海道庁の不正経理報道」で取材班の一員として新聞協会賞、日本ジャーナリスト会議（JCJ）賞など受賞。2004年、「北海道警察の裏金報道」で新聞協会賞、菊池寛賞、JCJ大賞など受賞。2012年から高知新聞記者。現在は報道部副部長。著書に「真実 新聞が警察に跪いた日」（角川文庫）、編者に「権力に迫る『調査報道』」（旬報社）など

石井暁氏

共同通信編集委員

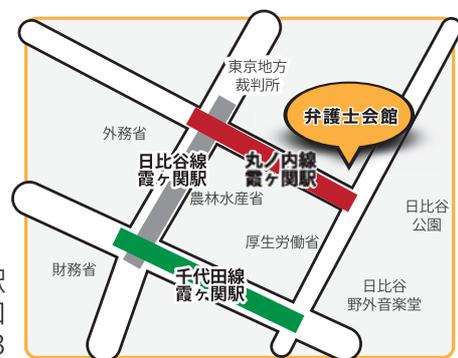


慶応義塾大学文学部社会学専攻卒業。1985年、共同通信社入社。社会部次長などを経て2012年10月から編集局編集委員。1994年、自衛隊のルワンダ難民救援隊に同行して以来、防衛省・自衛隊を20年余りにわたって取材している。「陸自『別班』、独断で海外情報活動」、「『文官統制』防衛省全廃へ」を特報。「空自、北朝鮮空爆を極秘研究」「中国軍、海自艦にレーダー照射認める」など多数の独自報道を手掛けてきた。

主催：
東京弁護士会

共催：
日本弁護士連合会 関東弁護士会連合会
第一東京弁護士会 第二東京弁護士会

問い合わせ先：
東京弁護士会 人権課 TEL：03-3581-2205



丸ノ内線「霞ヶ関」駅
B-1b出口
千代田区霞が関1-1-3